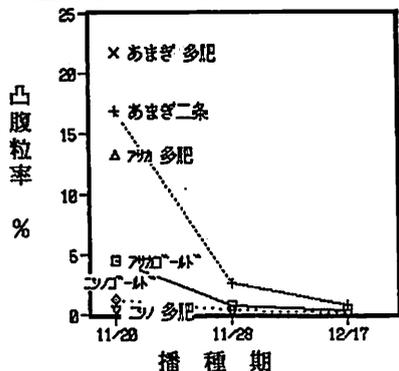
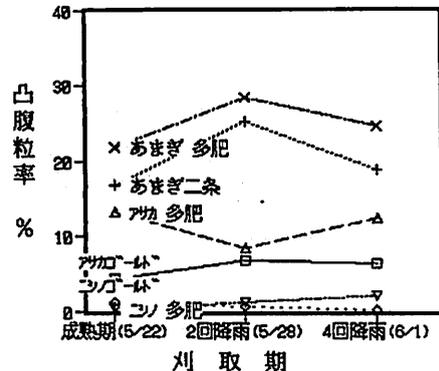


課題名	38 各種環境への適応性の高い二条大麦品種の育成	分類	②
	(2)ビール麦の品質低下要因とその原因		
試験研究年次	2～6年(継続)		
I 目的			
3年産のビール大麦に多く発生した凸腹粒、裂皮粒の発生及び品質低下要因について検討し、被害粒軽減のための栽培法の改善方策を明らかにする。			
II 試験方法			
1 栽培条件・刈取時期別の凸腹粒発生の差異(3年産)			
1 供試材料 アサガールト、あまぎ二条、ニソガールト			
2 栽培条件 播種期:11月21日、11月28日、12月17日 収穫期:成熟期、成熟期後2回降雨後、同4回降雨後 施肥量:標肥(6+3)と多肥(7.8+3.9)、11月21日播のみ			
3 区制及び調査穂数 各40穂を穂別に調査			
4 調査項目 穂別に凸腹粒率を調査			
2 品質低下要因とその原因			
3年度までの試験結果を取りまとめ、被害粒発生軽減のための栽培法、栽培管理について考察した。			
III 主要成果の概要			
1 3年産における凸腹粒の発生は、標肥栽培より多肥栽培で多く、また播種期が早くなるほど多くなる傾向がみられた。しかし、成熟期以後の降雨による凸腹粒発生の増加はあまり認められなかった。			
2 品質低下要因とその原因を2年産の調査結果を含めて整理すると第1表のようになる。			
3 これらのことから、被害粒軽減のための栽培法、栽培管理としては、①湿害が発生しないように排水対策する、②早播は避け、適期播からやや晩播する、③厚播及び多肥栽培は避ける、④うどんこ病、赤かび病の防除を行う、⑤倒伏させないように土入れ、踏圧を行う、⑥成熟期に達したら雨に当てないように速やかに収穫する、の6点があげられる。			

IV 主要成果の具体的データ



第1図 播種期による凸腹粒発生程度の差異



第2図 刈取期による凸腹粒発生程度の差異

第1表 ビール大麦の品質低下要因とその原因

要因	気象的原因			栽培的原因
	出穂期以前	登熟期	成熟・収穫期	
整粒歩合の低下	・多雨(湿害)	・多雨(湿害)		・早播 ・厚播及び多肥による過繁茂 ・倒伏 ・うどんこ病
側面裂皮粒	・多雨(湿害) ・低温(凍霜害による不稔) ・日照不足による(穎の発育不良)			・早播
凸腹粒	・多雨(湿害)	・多雨?(湿害) ・日照不足?(登熟不良、転流停止)	・降雨?	・早播? ・多肥? ・刈遅れ? ・うどんこ病?
赤かび病		・開花~乳熟期の降雨		・無防除 ・倒伏
うどんこ病	・高温・多雨(過繁茂)	・乾燥		・多肥、厚播 ・倒伏
穂発芽			・多雨 ・登熟後半の高温乾燥(休眠打破) ・成熟期後の低温(休眠打破)	・倒伏 ・晩播
退色粒			・多雨	

V 成果の評価と取扱上の留意点
ビール大麦普及指導上の参考資料とする。

VI 今後の研究上の問題点
凸腹粒発生原因の解明

VII 資料名
1 2年度 福岡県農業総合試験場 農産研究所 二条大麦育種試験成績書
2 2年度 福岡県農業総合試験場 秋冬作及び早期水稲試験成績概要書